



今年度最後の研修となる校種別で行う研修（第8回）は、まず、「児童生徒や保護者からの信頼確保に向けて③」を行いました。全県校外研修（第2回）における講義「児童生徒や保護者からの信頼確保に向けて②（子どもの人権を尊重した教育活動）」を踏まえ、非違行為に関する事例や、「自分に甘くなった」「これぐらいは大丈夫」と感じた事例について、その要因や未然に防ぐ対策を協議しました。その後、防災教育の実践交流を行いました。そして、「1年目のまとめと次年度に向けた課題の整理」の演習では、1年間の研修内容を見返し、授業づくりにおける自身の学びと成長、課題について発表を行いました。最後に、初任研の締めくくりとして、教務部長の「学び続ける教員になるために④（先輩に学ぶ）」の講話を聞き、今後の教員としての展望を一人一人が思い描きました。



◆ 児童生徒や保護者からの信頼確保に向けて③ （被害者・加害者の心理について理解を深め、自身の心を振り返る）

【小学校】

○ 研修に向けて

- ・児童との関わりの中で、友達のような関係になってしまうことがあります。「ただ気軽に話せる先生」ではなく、「信頼して話せる先生」になるために気を付けるべきことを知りたいです。
- ・「これは学年で共通理解しなくてもいいか」と自己判断したことがよくない事態に陥ってしまうきっかけになったということがありました。そのことから、些細なことでも一人で抱え込むのではなく、情報共有することの大切さを学びました。さらに注意すべきことを学びたいです。

○ 研修の振り返り

- ・自分に甘くなってしまったことを振り返る中で、はじめは「それくらいいいんじゃないの？」という内容もありましたが「積み重なるとどうなりますか？」という問いにドキッとしました。「これくらいなら大丈夫」という考えが積み重なって非違行為につながっていくと感じました。日頃から自分の意識を高め、今回のようなセルフチェックを教職員全体で取り組んでいく必要があると感じました。
- ・今回の研修を通して、改めて他人事として考えるのではなく、自分事として考えることが大切であると感じました。法律に触れないから良いのではなく、教育公務員として、さらには人としてあるべき姿を自覚し、仕事だけではなく日々の生活に向き合っていきたいと思いました。

【中学校】

○研修に向けて

- ・ 全県校外研修（第2回）で講義を受けた性加害の問題が非常に印象に残っています。もちろんそのようなことがあってはいけませんが、現実を目を向けて教員、社会人としての自覚を改めてもつとともに、普段の生活から、保護者や生徒に信頼されるよう学んでいきたいと思います。
- ・ 前回の講義の中で、生徒との距離感に気を付けなければならないと思うところがありました。今の学校は教員と距離感を適切に保っている生徒が多いですが、学校によってはよい意味で人懐こく距離感が近い生徒も多いように感じます。生徒と教員という適切な距離感や意識を今一度しっかりともち、生徒が自分に対して友達のような接し方にならないようにするとともに、生徒が安心できるような居場所を作っていきたいです。

○研修の振り返り

- ・ 自分には関係ないと思っていると、気付かないうちに非違行為をしている可能性があることが分かりました。また、関わりのある生徒に迷惑がかかり、心を傷つけることとなります。子どもが見たらどう思うか、という視点で行動することが大事だと思いました。
- ・ ワークシートで、自分がしてしまったことを書く場面がありました。普段を振り返った時、生徒に対する言葉遣いがまだまだ甘く、気が付かないところで傷つけているのではないかという不安を感じました。生徒に対しても「それを言われた他の人がどう思うか、どう感じるかを考えて発言しなさい」と日々指導しているにも関わらず、私自身が出ていかなかったように思います。築いた信頼を崩さないように、教員として正しい行動、言葉遣いをしていきたいです。

◆防災教育の実践交流

【小学校】

○研修に向けて

- ・ 実際に災害が起こった時、きっと子ども達はパニックになると思います。その時にどう落ち着かせるのか、明確な指示が出せるのかが不安なので、他の方の実践から学びたいです。
- ・ 防災研修で学んでいることを子どもたちにしっかりと伝えていきたいと思う一方、私自身大きな震災を経験しておらず、指導の仕方に不安があるため、他の方の発表を参考にしたいです。

○研修の振り返り

- ・ 道徳教材や映像資料を活用できると思いました。また、心・知識・技術を育てるための具体的な方法を知ることができました。減災の意識をもって子どもたちに大切なことを伝えていきたいです。
- ・ 地域の特性や、地形など、その土地によって発生しやすい災害が違うので、校区の特性を知ることが大切だと思いました。子ども達が自分の命を守るために、どのような防災教育が必要なのかさらに知識を深めていきたいです。そのために、いろいろなところへ足を運んで、実際に見て、聞いて、学んでいきたいです。



【中学校】

○研修に向けて

- ・防災教育は、生徒がこれから生きていく上で非常に重要です。今後必ず起こる災害に備えたり、自分の命だけでなく他の人たちの命を守ったりするためには、日頃からの備えが欠かせないということを生徒達に伝えていきます。しかし、生徒たちは災害を経験していないため、自分事として考えることが難しいので、どのようにすれば自分事として考えさせることができるのか、他の方に聞いてみたいです。

○研修の振り返り

- ・防災教育というと避難訓練というイメージがありましたが、各校の話から様々な取り組みを知ることができました。津波のスピードを動画で感じる、ハザードマップを見る、阪神・淡路大震災の語り部となって小学生に伝える等、様々なものがありました。避難して命を守るだけでなく、避難所での生活やメンタルケア等、命が助かったその先についても生徒と一緒に考えを深めていきたいです。

◆ 1年目のまとめと次年度に向けた課題の整理

【小学校】

○研修に向けて

- ・年度末になり、いろいろなことについて「あの時にこうしておけばよかった」「もっと違う方法があったのではないか」と思うことが増えてきました。今回の演習で自分を振り返り、子ども達と過ごす残りの時間や次年度に向けての目標を確認し、まとめていきたいと思います。
- ・一年間研修を受けてきて、自身の知識の不足や指導法のバリエーションの少なさを痛感することが多かったです。講義で学んだことも多いですが、同じ初任者の意見から新たな知見を得ることも多くありました。今回も同じグループの方と成長を共有したいです。

○研修の振り返り

- ・自分自身を客観的に振り返ることで、成長や課題が見つかり、次年度に生かしていきたいと思いました。また、他の先生方の実践を聞くことで刺激をもらうこともできてよかったです。
- ・1年間一緒に学んだ仲間のプレゼンを聞くことで、自分が忘れていた大事なことを思い出せてよかったです。また、どの方も「めざす子どもの姿」について触れていて、そこから逆算して授業づくりを行うことの大切さを改めて感じました。
- ・この1年を振り返り、自分自身の授業に対する考え方の変化に気付くことができました。他の方の振り返りを聞いて、いろんな視点や気付きがあるなと感じました。改めて、これまでの講義で学んだことを思い出すことができました。



【中学校】

○研修に向けて

- これまでの学びを振り返ってみて、この1年で学んだことが多くあったことに驚きました。しっかりと発表して、また他の先生の発表も聞いて、これからの自分の成長に生かしたいです。
- 1年を通して自分自身がどのような力を身に付けたのか、どのようなことができるようになったのかを見直し、来年度以降の更なる資質向上に繋げていけるように学びを深めたいです。

○研修の振り返り

- 他教科の先生たちの振り返りを聞く中で、生徒が主体的に活動することがより求められることが分かりました。同じ教科の中ではより専門的な振り返りとなり、さらに授業づくりに励んでいきたいと思いました。
- 各教科によっての視点が全く違うところが非常に勉強になりました。しかし、共通部分もたくさんありました。「めざす子どもの姿」をイメージした授業づくりは、どの教科にも共通しており、特別活動やホームルームでの活動でも共通していえることだと思いました。2年目に向けて、生徒の考えをもっと上手に授業にフィードバックしたいと思います。



◆学び続ける教員になるために①（先輩に学ぶ）

【小学校】

○研修に向けて

- 日々の業務に追われていて、学ぶことがなかなかできていないのではないかと正直なところ感じています。今一度振り返る機会として、講話を聞きたいです。
- 来年度から、研修という形で学ぶ機会がとても少なくなります。しっかりと自分で計画を立て、より良い教員になるためにはどうすれば良いか、学んでいきたいと思います。

○研修の振り返り

- 諸先輩方が続けてきた授業や生徒指導の技術を受け継ぎながら、自分のめざす教育とは何かを考え、学び続けていきたいと思います。日々の業務の結果が数字や実績として残りにくい職業だからこそ、子どもたちへ何か一つでも伝えられるように、やりがいをもってこれからも努力していきたいと思いました。
- 教員にとって、子ども達をそっと支えることが大切な役割であると感じました。子どもたちが自分の力でできたと感じられるようなサポートを意識しながら、授業づくりに努めていきたいです。

【中学校】

○研修に向けて

- 私が人生で大切にしたいことは学び続けることです。それは教員としてだけでなく、人として大切にしたいからです。教員として働いたこの一年間、生徒から多くのことを学んだり、知らなかったことを知ったり、新しいことに興味を持ったりすることができました。一方的に教えるのではなく、自分の学びや考えを生徒に伝えたり一緒に考えたりして、ともに学ぶ姿勢を大切にしたいです。さらに大切にすべきことについて、講話から学びたいと思います。

○研修の振り返り

- ご紹介いただいた大村はま先生の言葉にハッとさせられました。生徒との関係を築く中で、好かれようと思う気持ちがゼロであったかと聞かれるとそうではありません。「教員が生徒を導く」という言葉の真意を改めて考えるきっかけをいただけたと思います。学び続け、先輩や同期、後輩から教わりながら、支え合い、お世話になった方に恩返しできる人間になれるよう研鑽を重ねたいと思います。
- 教員は人を育てる立場なので、様々な経験を得て私自身も成長していく必要があると感じました。生徒の成長を陰ながら支え、生徒が自立した人間になっていけるように努めたいです。また、初めてのことばかりなので、周りの力も頼って、一人で抱え込まずに教育活動を行っていきたいです。心身ともに健康で信頼される教員をめざし続けます。
- 「うまくやろうとしなくていい」という言葉に救われたような気がしました。2年目からはもっとしっかりしないといけない、という漠然とした不安がありました。これからも自分らしく頑張っていけばいいと前向きな気持ちになりました。

